

中学校
2年/道徳

情報モラル「情報発信の責任」

～ICT機器を活用し、ネット社会の情報の信ぴょう性を考える～
実践者 富谷町立富谷第二中学校 教諭 東灘 邦祥

1. 学習の概要

単元名

情報モラル「情報発信の責任」

単元の目標

- 本時のねらい
 - ・・・責任を持って行動することの大切さに気付かせる。
- 情報モラル指導の視点
 - ・・・情報を発信する際、責任を持って発信することの大切さに気付かせる。

本時の学習

学習活動

1. 情報の信ぴょう性が不確かなサイトがあることに気付く。
2. 読み物資料を読む。(情報モラル指導パッケージより)
3. 情報を早く伝えたいという気持ちに共感する。
4. 軽率な行動による影響について考える。
5. 情報を伝えるときにどんなことに気を付けるべきか考える。
6. ネット社会には不確かな情報が溢れていることを再確認する。
7. 本時の感想を記入する。

指導上の留意点

- 「都市伝説」に関するサイトを示し、ネット社会の情報の信ぴょう性について考えさせる。
- 生徒の経験と重ね合わせ、共感できるようにさせる。
- ペア学習を取り入れ、広く意見を交換できるようにする。
- 情報の信ぴょう性を確かめる重要性と共に、相手のことを考えて行動することの大切さに気付かせる。
- 「ネット上のウソに関する調査結果」を示す。

本時活用機器・コンテンツ

- ・教師用PC ・電子黒板
- ・みやぎの情報モラル総合サイト 指導パッケージ「情報発信の責任」
(<http://midori.edu-c.pref.miyagi.jp/moral/>)
- ・「ネット上の嘘」に関する調査結果
(株式会社ニワンゴ 2010/3/30実施)

補助資料等

- ・道徳ノート ・読みもの資料「情報発信の責任」

2. 学習のポイント

・生徒の実態に合わせた教材

本学級では、インターネットに接続できるコンピュータがある家庭が80%以上を占め、生徒は情報を取り入れる手段として帰宅してからもコンピュータを活用している。しかし、情報の信ぴょう性を確かめる意識は低く、書かれていることをそのまま信じてしまうことが多い。今回の資料はネット上に書き込まれた嘘の情報を軽率に広めてしまい、他に迷惑をかけるといった内容になっている。日ごろの生徒たちの行動と共通する点が多く、共感しやすい教材である。自分の生活に置き換え、情報発信の責任について深く考えることができる。



・ICT機器を活用した話題提示

今回の授業では導入に「都市伝説」に関するサイトを閲覧し、情報の信ぴょう性について考えさせるといった場面を設ける。その際、電子黒板を活用し、全員がネットサーフィンをしているような臨場感を持たせる。これにより、軽率に情報を信じてしまう自分自身に気付くことができると考えている。



3. 学習のまとめ

・生徒の姿より

今回の授業の感想として「情報発信する際は本当の情報かどうかよく確認する」「相手のことを考え、責任を持って行動する」といった意見が見られた。情報発信の責任について考えを深めることで、日ごろから自分の行動について責任を持つことの大切さに気付くことができた。

また、ICT機器を活用したことで、学級全体がネットサーフィンしている臨場感を出すことができた。これにより、生徒一人一人がインターネットに接する姿を客観的に見直すことができた。

